

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300502		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム花咲み(はなえみ)		
所在地	富士市宇東川西町8番41号		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300502-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」自分や親、大切な人が受けたいと思う介護、ケアをしていこう、を職員全員が共通認識として、寄り添うケアの実現に取り組みサービスの質向上に努めている。 ・平成28年4月の開設時よりISO9001認証拡大を目指し、顧客満足度向上と一定以上の質の確保を目標に取り組んでいる。 ・湖山グループ・法人として人材育成に力を入れた研修や勉強会の体制がある。 ・高原のホテルをイメージとした落ち着いたある室内であり、ゆったりとした空間でお客様にお過ごしいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>4月の開所に向けた内覧会では100名余の来場者で賑わい、5ヶ月足らずで「Cafe花咲み(カフェハナエミ)」を開始し、その翌々月には隣にある就労支援事業所と同日開催した「花咲み秋まつり」で300食用意した焼きそばが無くなるほど、地域とのつきあいを一挙に進めています。開設から約半年、週1回欠かさず職員の発意で会合をもち、「生まれたての事業所の課題解決を図っている」ことも評価されますが、「もうすぐ隔週になるね…」との言葉には、一つひとつ是正してきた足跡とともに職員の自負を感じます。家族にとつたアンケート設問の、「挨拶や電話応対～」には「よく対応してくれている」に満票の100%という結果というのも頷けます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここは、たくさんの笑顔が集まるあなたの居場所」をモットーとしている。事業計画から、個人目標に繋げ、定期的な面談を実施しケアの質向上に努めている。	家族にとつたアンケートの設問「挨拶や電話対応は…？」で、評価4段階一番上である「よく対応してくれている」に満票の100%という結果となり、理念「たくさんの笑顔が集まる～」への達成度が受けとめられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近隣への散歩、買い物などを行っている。地域の一員としての生活、日常的な交流までには至っていない。	内覧会の3日間で100名余の来場者で賑わい、開設から5ヶ月足らずで「Cafe花咲み」を開催し、その翌々月には「花咲み秋まつり」で300食用意した焼きそばがなくなってしまうほど、地域に周知されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内職員、事業所職員が講師となり地域向けの勉強会を実施した。参加者はまだ少ないが勉強会後にはお茶の時間をもち交流を図った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原田地区区長、町内会長、民生委員、隣のふれあいバンク所長、お客様代表に参加していただき2ヶ月に一度開催しているなかで、報告以外に相談をしたり、アドバイスを頂いている。	併設事業所と合同で初年度からつつがなく開催できています。地域からも連合町内会長、町内会長、就労支援事業所所長の出席が得られ、次回からは保育所の園長先生も加わる予定でメンバーが豊富です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、事業所としての取り組みや運営状況について市の職員、包括支援センター職員などにアドバイスを受けている。	運営推進会議には富士市と地域包括支援センター職員が交替で足を運んでくださっています。また、市職員も同席するグループホーム連絡会では、企画の一環として他事業所との交流事業にも取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関等の施錠は行っていない。身体拘束の研修を年間計画に入れており法人内研修には職員が受講した。事業所としても身体拘束ゼロ宣言を行ったが、法人としても身体拘束はしない方針である。	法人の年間研修には7割方が受講済で今後も順次参加を予定しています。帰宅願望の症状が重く30分余怒鳴る利用者もいて、平常心を保てなくなりそうときに職員間で助け舟をだせている点には安心感が湧きます。法人主導でストレスチェックも実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての研修に職員を受講させている。事業所内にてこやまケアも含め勉強会を行い、日々の業務に活かされるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修参加や学ぶ機会はできておらず理解、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書について説明を必ず行いご署名、ご捺印をいただいている。 変更等ある場合は、家族会や個々に説明を行う予定。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートの実施し、それに伴い改善、実施、報告を行い、ご家族にアンケート結果と改善内容について掲示の他、個別にて郵送している。ご意見箱を置き定期的に確認、ご意見をいただいた際には運営推進会議でも報告をしている。	症状によっては家族、職員と会することもあり、「協力し合ってあたる」姿勢をもっています。また法人アンケートでの要望から、居室担当職員と利用者で写真撮影のうえ掲示し、面会の家族から親しめるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や必要時に応じて相談、面談で対応している。また法人内の運営管理部長が部署会議に度々参加し直接、職員の声を聞く機会がある。	開設から約半年、週1回(休出手当付)職員の発意で集まり、課題解決を図っています。「もうすぐ隔週になるね…」という言葉には、一つひとつ是正してきた足跡とともに職員の自負を感じます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を行い、年度を通し中期ごとの目標の進捗状況確認面談を行い意欲向上につなげている。また、リフレッシュ休暇・ハッピー休暇を設けている。また残業の削減に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前には3日間新入職員研修を実施、13名の職員が参加した。法人内研修等には積極的に参加させ、スキルアップを目指している。中途入職者には、OJTを取り入れ育成体制を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。市内GHとの交流会を持ちお客様も職員も楽しい時間を過ごした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常でのお客様の声に耳を傾け、企画実施等につなげ「食べたい」「やりたい」ことの実現と馴染の関係性を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまでに至った経緯や苦労話、ご家族様のご心情をお聞きし、要望を取り入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、現段階でどのサービスが適切か見極め対応をしている。開設にあたってはご家族様の状況を踏まえ、他GH待機の方、GH閉鎖の方は優先してご利用いただいた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、入居者の得意分野の話をお聞きし、情報共有をしている。お客様に出来る事は職員と一緒に、役割となるよう対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会は計画中。来訪時、日頃の様子を伝えている。あるお客様の体調不良時には連絡を密にとりご家族様からご理解とご協力をいただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前ご利用されていた事業所職員、お客様との外食企画を実施して喜ばれたが、外出による親類や友人、場所による支援はあまり行えていない。来訪はいつでも歓迎し、共に過ごす時間を設けていただいている。	面会時間を定めていますが、希望には柔軟に対応し、「週末には家族と外出」「親戚が浜松から」「友人が菓子持参で」とそれぞれの縁を継続しています。お気に入りのスポーツ紙を早番から受け取り、御満悦の人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、関係性を保っている。冗談を言いながら、笑いあう場面も多く見られている。男性のお客様が1名いらっしゃるが居室で横になられている時間が長いので職員からの声掛けを多くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービス利用のため終了となった方が1名いる。今後も必要に応じて相談に対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族意見を取り入れ、検討している。	言葉で意見をはっきり言える人が多いため、会話のなかで要望の聞き取りが叶っています。職員のコミュニケーション力も凸凹がなく、よく聴けている様子を視認しました。	1年足らずで何年間分ものコトにあたった事は大いに評価されますが、今後は個別の「やりたいこと(レクリエーション)」「行きたいところ(外出支援)」の洗い出しが進むことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には暮らしの情報(私の生活史シート)(私の暮らし方シート)をご家族様にご記入いただきケアに生かすようにしている。定期的にモニタリング・アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や、健康状態をバイタル表にし、申し送りを通して現状把握に努めている。帳票を変更し、主治医に日々の変化、状態が伝えやすいようにした。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、全職員の意見を反映した介護計画を作成するように努めている。	介護計画書の意向欄に「好きなものを好きな時間に食べたい」とある人は、隣の就労支援事業所に訪れるパン屋での買い物を愉しみとしている事例からも、介護契約書のマネジメントサイクルができていることが視えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にて、日々の経過記録等に記録し、職員間で朝夕の申し送りをし、情報共有を行っている。定期的なモニタリングを実施し、各担当者の意見書を反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医を始め、同法人(湖山リハビリテーション病院、ももはクリニック石坂)と連携を図りニーズに応える努力をしている。主介護者が県外在住の方には他科受診同行に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との交流の場を設けられるよう努力しているが地域資源を活用した生活ができていないとはいえない。グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な訪問診療にて連携を図っている。また認知症チームとして看護師、OT、管理栄養士も同行されるため多方面からアドバイスをいただいている。	訪問診療のある協力医に全員変更しています。認知症支援チームには大いに助けられ、例えば太りすぎた利用者は管理栄養士のアドバイスで「ご飯にシラタキを混ぜる」と介護計画書に記載され、取り組みが進んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師に、定期的に来訪してもらい健康管理を行っている。また緊急事態には連絡しお客様の安全と職員の安心につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への訪問で状況把握を行い、病院関係者のSWや関係者と情報を共有している。退院時ご指導いただいたことは実施、記録し訪問診療時に主治医に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはまだ行っていない。契約時に看取り介護について方針を家族説明し、同意書を書き交わしている。	看取りをおこなうとして契約時には詳しく説明し、「入居時看取りアンケート」「看取り介護に関する同意書」で加算に必要な書面も整えています。「入居時看取りアンケート」についてはあと1家族の回収を残していますが、他は全て揃っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは整備してあるが、定期的な実践訓練まで行っていない。感染症の研修は11月に実施、不参加者にも看護師より直接指導し効果性を確認した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っているが実際、職員が少ない夜間に起きた場合に職員が動揺することなく対応できるようにすることが課題である。地域の避難訓練にはお客様と参加したが協力体制は構築されていない。	通報訓練は実際に押さないものの、順序を追ったシミュレーションをおこなっています。地域の訓練では以前勤務先で担当だったという利用者がホース消火を立派にこなし、上機嫌で帰還したとのエピソードもあります。	法人の安否コールは職員全員で確認できたとのことですので、次のステップとして家族登録が進むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こよまケアを湖山医療福祉グループで取り組み、施設間評価や自己評価などを用いて、意識づけができるが本年度は行えていない。こよまケア勉強会を行い指導した。	その人に合った声かけができていて、またグループでのリレーションコーディネートも上手な職員の言動と、利用者の表情や発語からは安寧の暮らしが滲み、こよまケアの浸透が伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が発する言葉を大切に、笑顔が出る関わりを行い、実現に努めている。自己決定を尊重できるように意識しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など本人のペースに合わせるよう心がけている。男性の方がおひとりいるが居室に居る時間が長く声掛けをしても拒否されることが多く対応について話し合いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様によってはご自身で服を選び、また着心地にこだわる方もいらっしゃる。入浴を好まない方もおり強い関係性から清潔の保持ができるように努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあった食事形態を検討実施している。食事の調理、盛り付けや食器拭きなども手伝っていただいている。嗜好調査を11月に実施し献立に反映した。	介護士のなかには栄養士兼務の職員もあり、また魚の臭みをショウガで消したり、噛み合せを考えて揚げ物を焼き物に急きょ変更したりと工夫のある献立で、気難しそうな利用者も「いつも美味しいよ」と褒めていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度記録し、確保できるよう支援している。栄養士の資格を持つ職員がバランスのよい献立を作成している、訪問診療に同行する管理栄養士からも都度指導いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。歯ブラシセット消毒と、義歯の消毒を行っている。ご家族様よりご希望のある方は訪問歯科を受けている。診療より口腔外科のある専門医を受診、治療した方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本と考えて個別に合わせて対応している。イレウスから排便に注意を有する方には午前、午後5分程度トイレに座っていただく声かけを行い便秘を防止している。	高齢者でも軽く引くことができる大きな扉の先には洗面台のみで、便器は見えないエリアに配されていて、羞恥心に配慮した設計です。誘導が必要な人は2名のみで、他は自立なため排便記録はおおまかとなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行支援・運動から自然な排便となるよう支援している。毎日手作りのヨーグルトを提供し、便秘とならないように努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1度は入浴していたけるようにしているが職員配置上、入浴に対応できない日もある。一時期、毎日入浴をしたいとの訴えがあった方には対応した。	3面どこからでも脚が入る浴槽の下は可動式で、左右どちらが麻痺でも余裕でシャワーチェアを置くことができ、またどこを触っても手すりがあるというも見事です。CDラジカセから流れる演歌も入浴を盛り上げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子や睡眠時間の把握をし、不眠の翌日などは、日中休息の時間を設けている。20時前に休まれる方もいるが22時くらいまでフロアや居室でテレビや本をご覧になっているが無理に寝ていただくことはしていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、服薬チェック、申し送りにて確認をしている。主治医、訪問看護の看護師に相談や確認を行っている。訪問診療時には薬を変えてどうであったかの報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に情報をいただき、出来る事をしていただいたり、企画を全体や個別にて実施しているがまだ十分ではない。楽しみごとをより提供していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	企画などを通し外出している。天気の良い日は散歩に行っている。遠方への外出は車の都合もありあまりできていない。	月2～3回ある買い物では利用者も同乗し、帰りには公園や買い物に立ち寄って希望に副っています。法人からPTが定期的に来所しており、また職員が自宅からグローブを持ち寄りキャッチボールをしたり、外出以外で身体を動かす機会もあります。	季節の外出行事や、居室担当での個別外出企画を起案中とのことですので、進捗があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預り金にて対応。買い物に同行して支払いのできる方には行っていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は書けるお客様には書いていただく予定。娘様、ご親戚の方に電話を時々する方はいる。担当者が毎月、ご家族様へ日頃の様子を伝える手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を感じてもらえるよう装飾したり、提示ボードに作品等を飾っている。室温の調整や採光・換気・清掃など気を付けている。	クッションフロアをはじめ壁に消火器が内在したりと、長く福祉事業所を運営する法人ならではの設えです。イタリアのバル風の照明がある対面式のキッチンでは職員が利用者との会話を弾ませ、また2つ配されたソファで井戸端会議をする人たちもいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席は数回見直しをして固定化してきている。、席以外でも自由に過ごしていただき、気の合う方同志、ソファでお話している様子がみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるものは、ご本人が以前から使われていた物や自慢の物、昔の写真や家族集合写真等が置かれている。	一面のみ模様の入った壁紙でお洒落な造りで、北向きの部屋では雄々しい富士山が一望できます。アコーディオンを持ち込む利用者は、普段は読書にふけていますが、訪問時は思い出の曲を披露くださいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手すりは可動式でありその方にあった使い方ができるようになっている。ベランダで洗濯物干しや取り込みをしてくださる方もいるが大きな窓があり室内に職員がいても見守りしやすい。		